

# NJ 素流協 News

平成21年12月25日

第60号

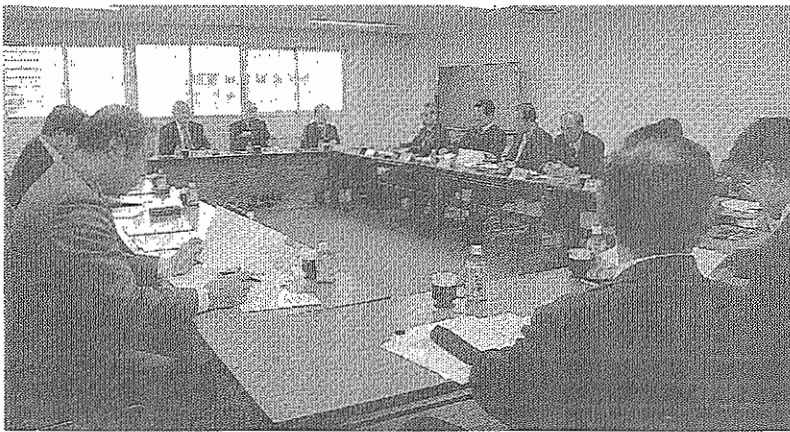
平成21年12月25日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)

TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 第三回国産材利用拡大推進需給協議会

今年度の第三回協議会が、十二月十六日、盛岡市農林会館会議室において開催された。報告・協議事項は次の通り。

一 原木等の需給動向の現状と今後の見通し  
ア、素流協の出荷実績と見通し



最近の合板工場向け出荷実績は別図の通り。

春に落ち込んだホクヨープライウッド、北日本プライウッドへの出荷は、七月以降月を追って回復し、十一月には二社合計で過去最高の出荷量二二、七九五<sup>m</sup>を記録した。一方、スギの出材不足が続いており、工場発注に対し納入が追いつかない状況である。

樹種別の出荷割合は、ホクヨーP向けがカラマツ六〇%、スギ三六%、アカマツ四%、北日本P向けはカラマツ二九%、スギ七一%で、二社合わせるとカラマツとスギの割合が四九%ずつとなる。

年明けも、十一月、十二月並みの出荷を見込んでおり、今年度の累計出荷量は、一〜三月の発注量次第では二十万<sup>m</sup>台に乗ると見込まれる。

国有林システム販売については、国が木材不況対策で春の生産を抑

えたため、契約が年度後半にずれ込んだ。当初協定では一二、三五〇<sup>m</sup>の契約予定のところ、現在契約済の数量は六、八〇〇<sup>m</sup>(消化率五四%)で、残りはこれからの契約となる。組合員の出荷を圧迫しないよう、カラマツについては出荷を調整し、スギについては不足していることから、契約次第で出荷したい。

イ、合板工場等の需給動向と見通し

市場での値崩れが激しく、十一月に入ってから過去にない低迷となっている。

市場では、先行きの不安もあってか商品の動きが悪い。十月の国内の合板総生産量は二二二、〇二一<sup>m</sup>で、春から少しずつ増えてきたが、在庫も二十万<sup>m</sup>を超えており、出荷が抑えられていることが分かる。住宅の新規着工に動きがない限り、市況に変化はないと思われる。合板製造各社は新聞紙上で四割減産を発表しており、ホクヨーPも一、二月は減産もやむな

しと考えている。

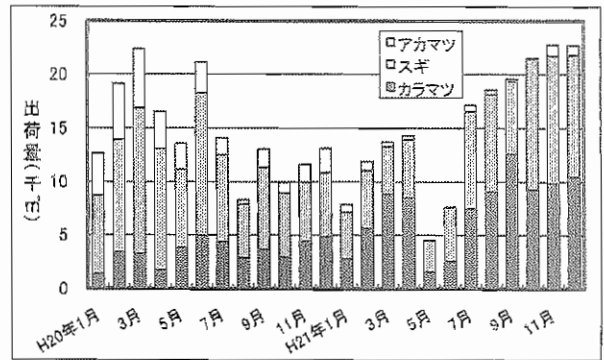


図 ホクヨープ、北日本P合計 月別出荷量の推移(平成20年1月～21年12月)

輸入外材は、商社の中間決算後ということもあり乱売合戦となった。ロシア材単価は一四五～一五〇ドル、北米材が一三五～一四〇ドルとなっている。ロシア材の輸出関税は当面25%のまま据え置きされたが、発注しても入荷に二ヶ月かかる状況で、今年はや間合計で三十万m程度しか入ってこない模様である。

一方、このような状況の中でも、国産材使用率はここ三年間着実に伸びている。スギを台板に使用し

た床材など、国産材の有効活用につながる商品の開発も進行中である。

### ウ、素材生産業者の生産動向と見通し

岩手県内では、十二月から二月頃まで国有林の生産や森林整備を行う事業者が多い。国有林では伐採後すぐに植栽を行うところが増えており、造林請負の声掛かりもある。

生産樹種は国有林、民有林ともにカラマツが主体になっている。スギは立木価格が高く、国有林の入札でも落札しない場合が多い。また自社林でも、今スギを伐ると赤字になるため、生産できない状況である。

一方、長らく製紙工場の減産で、広葉樹チップの受入制限や買取価格の値下げが続いていたが、近頃中国向けの広葉樹パルプの需要があり、荷動きがよくなっている。広葉樹チップの生産コストが割高であることや、高性能林業機械を導入した生産者が針葉樹生産に移

行したことなどから、広葉樹チップは品薄になってきているようだ。

### 二 素材生産をめぐる全国的動向

平成二十二年度林野庁予算の概要説明の中では、「効率的な森林整備の推進と間伐材等の安定供給のため、集約化施策を加速化する」ことがうたわれている。また非公共事業の一つとして設けられている「森林・林業・木材産業づくり交付金」の設置課題の説明の中でも、「効率的かつ安定的な林業経営を担い得る事業者等による集約化の推進が重要」と述べられている。

これについて出席者より、「今まさに施業集約化の事例はあるのか」という質問があった。また「このような交付金制度の要領・要項を見ると、新しい民間事業者が参画しにくいのが現状であり、国に対し条件緩和を要求して欲しい」との意見も寄せられた。

これについて全素協佐々木参与は、「施業集約化の定義は明確にされていないが、施業地を作業路網

整備によって団地化し、高性能林業機械を活用することが想定されている」と説明した。さらに出席者からは「離れた現場でも、一体的な管理の下で生産・流通を行うことで、集約化は実現可能ではないか」との意見も出され、盛んな議論が行われた。

### 三 岩手県からの情報

林業振興課玉山特命課長より、県産アカマツ振興の取組として、県林業技術センターのアカマツ青変防止技術の研究(※)のほか、久慈にアカマツ振興センターが設立され、アカマツ材製品の育成や販路拡大のための取組が行われていることが紹介された。

(※夏場にアカマツを伐採すると、キクイムシが青変菌を媒介し、材にいわゆる「アオ」が入る。これを防ぐには防虫・防カビ剤の散布が効果があるほか、伐採後直ちに、すなわち積算温度が摂氏四〇〇度に達する前に山から搬出し、人工乾燥、製品化すれば青変が発生しないことが分かった。)

# 合板工場への納材丸太を検査

素流協は、先月下旬合板工場への丸太の納材状況の検査を実施しました。

この検査は、商取引の基本である取扱物品の正確性を確保し、受入工場側との信頼関係を維持していくために必要なことで、毎回抜打ちで実施しています。今回は、

ホクヨープライウッド㈱へ納材にきたトラックについて、北星㈱工場土場において、送状に記載されている内容と積載している丸太の内容が一致しているかを調査しました。(スギ一台、カラマツ一台、アカマツ二台、計四台)

調査した項目とその結果概要をお知らせします。

## ▽総本数と径級別本数

送状本数と実際に積載している実積本数が、一致していたのは残念ながら一台のみで、二台が送状よりも多く(二本、四本)、一台が送状より少なく積んでいました(一

本)。

径級別に送状本数と実積本数を比較すると、全てのトラックで相違が見られ、径級ごとには一〜三本違っており、その累計本数は六〜十本となりました。なお、径級別の本数と相違本数とは相関が認められませんでした。

## ▽表示径級の正確性

丸太の木口に表示されている径級と実際の径級を比較すると、概ね五%前後の丸太本数が異なり、その内容は、実際の径級より太く表示されている丸太より、細く表示されている丸太の方が多くなっていました。

これは、検知の際全てにスケールを当てていないこと、当てる位置を間違えたこと、太さが境界付近のものは細い方に表示する意志が働いたことなどがその原因として考えられます。

## ▽長級

規格より短い丸太は全く見られず、反対に規格をオーバーしているものが三十五%に達しましたが、その程度は一〜二センチと僅かで、四センチ以上オーバーするものは皆無でした。

## ▽材積(区)

送状の内容と実際の内容が本数や径級で違いがあったことは前述しましたが、送状と実際の材積との違いを比較すると、全てのトラックにおいて、一%前後と僅かではありますが、実際の材積の方が多くなっていました。

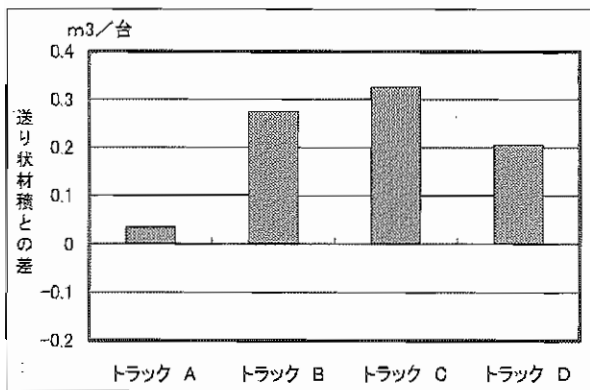


図 送り状表示材積と実材積との差(トラック別)

これも、やはり組合員に安全性を求める意志が働いた結果と思われる。

## ▽曲がり・その他の規格

曲がりには、二m材の場合末口直径に対する最大矢高が10%以下となっており、この規格をオーバーするものが僅かですが認められました(トラック一台当たり一〜四本)。また、大節、腐れ、根張りなどの欠点のある丸太が若干含まれていました。

今回の検査結果を受入工場側に報告するとともに、今後とも出荷者に対する規格等遵守の指導を一層強化する旨申し入れ、承諾を頂いたところであります。また検査対象となった出荷者には個別に指導しました。

組合員の皆さんには、今一度、合板用丸太の規格を確認され、特に径級表示について不適合とならないように、作業をされている方々への指導を徹底されるようお願いいたします。

岩手県森林整備加速化・  
林業再生協議会が間伐材  
流通経費支援計画を承認

国庫補助事業「森林整備加速化・  
森林再生基金事業」にかかる岩手  
県森林整備加速化・林業再生協議  
会の第三回目の協議会と流通専門  
部会が開催され、当組合員を含む  
十二事業体が計画した「間伐材の  
流通経費支援（運搬経費助成）」の  
事業計画が承認され、岩手県へ提  
出されました。

一葉

広

葉

樹

14

▽寿命

一般に生物には寿命というものが  
あり、無限に生きることができ  
ないものと思われている。

しかし、ある種の生物には寿命  
はなく、無限に生きることが可能  
であるとする考え方もある。

樹木の生長点は、樹齢に関係な  
く常に若いものであるから、樹木  
は老化して死ぬことはないとする  
ものである。

確かに、樹木は挿し木での発根

表 天然林における優占木の寿命

樹種	寿命	樹種	寿命
シラカンバ	1	カツラ	2~3
ドロノキ	1~(2)	シナノキ	2~3
キハダ	2	ヤチダモ	3
ホオノキ	2	イタヤカエデ	3
ウダイカンバ	2~3	センノキ	3~(4)
ダケカンバ	2~3	ミスナラ	4

(注)寿命欄 1:100年前後、2:200年前後、3:300年前後、  
4:400年前後又はそれ以上

や根株からの萌芽があるので寿命  
が無いように考えられるが、発根

や萌芽の能力に老化現象が見られ  
ることから、樹木の寿命が無限と  
見るのは無理のようである。

▽若返り

生物における若返りとは、本来  
世代の交代で見られるもので、古  
い個体が死んでも新しい個体が形  
成され、種の維持がなされること  
である。

樹木では、挿し木や萌芽更新な  
どの無生殖的な若返りもあり、広  
葉樹林では萌芽更新など人為的に  
若返り作業が行われている。

▽老化

高等動物では、一つの器官(臓  
器)が老化したり、死んだりする  
と、それが個体の老化や死につな  
がりやすい。

しかし、樹木では、一つの器官  
の老化や死は個体の老化や死につ  
ながることはあまりなく、むしろ、  
落葉や落枝など老化や死はプラス

に機能していると見られる。

樹木の老化や寿命は、温度や光、  
水分の影響を受け、一般的には環

境条件が良く、生長が旺盛なもの  
は早く老成し、寿命が短くなる傾  
向がある。

トピックス

いよいよ一発下ろし禁止

ホクヨープライウッド(株)への納  
材(北星(株)工場土場)は、いわゆ  
る一発下ろしが平成二十二年一月

より禁止となります。  
荷下ろし機具を備えていないト  
ラックは専門業者へ依頼する(有  
料)こととなりますので、納材前  
日までに素流協へ連絡願います。

冗談欄

加齢臭 その2

主婦に「夫の洗濯物を臭いと  
感じるか?」とアンケート調査  
がなされた。

二十九%の妻が不快に感じる  
と答え、会話が少なく、夫に魅  
力を感じない妻になると不快は  
六十一%に跳ね上がり、反対に、  
夫婦関係が円満である妻は六%

く感じるようだ。  
今の時代、加齢臭に代表され  
るように、体臭が悪者扱いされ、  
テレビCMではとりつかれたよ  
うにニオイを消すのに躍起となっ  
ている。

無臭空間にだけ居ると、臭覚  
はみるみる衰えるらしい。

に減少し、「仕事を頑張っている  
証拠」とか「夫そのもの」と好  
意的に思っている。

臭いからその人を嫌いになる  
のではなく、嫌いだからその人  
のおいまでもが嫌になり、臭

において危険を察知するとい  
う生物本来の能力はやがて消え  
うせ、人類存亡の危機にさらさ  
れるというのは大げさだろうか。  
ハナ(鼻)はだ困ったハナ(鼻)  
シである。

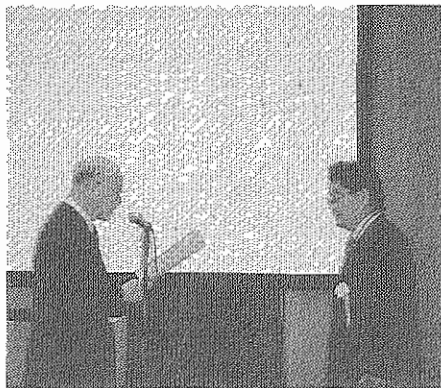
平成21年11月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約360㎡増加、カラマツが約350㎡増加、アカマツが約950㎡増加し、全体では約1,660㎡増加している。昨年同月と比較すると、スギが約4,890㎡増加、カラマツが約4,940㎡増加、アカマツは約610㎡減少し、全体では約9,230㎡増加している。工場別では、ホクヨープライウッドが前月比較で約1,580㎡増加、昨年同月比較では約7,740㎡増加、北日本プライウッドは前月比較では90㎡増加、昨年同月比較で約3,430㎡増加となっている。これら増減の主原因は、工場側の受入調整によると考えられる。石巻2工場への出荷はなかった。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約540㎡増加している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約530㎡減少、昨年同月より約360㎡増加している。
- 3 今年度の年間計画量に対する8ヶ月あたりの累積出荷量の割合（目標達成率）を67%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷は計画を9~10%上回る進捗状況となっている。

(㎡, %)

樹種	長級	販売先				計	累計			
		合板用					計	合板用	その他	計
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウッ ド(株)	セイホク (株)、西北 プライ(株)	小計			樹種別割合		
スギ	2.0	4,273	2,622		6,895		39,230			
	4.0	2,913	2,065		4,978		23,066			
	計	7,186	4,687		11,873	901	( 7,032) 62,295	49.2	4,246	
カラマツ	2.0	5,101	1,594		6,695		39,357			
	4.0	2,366	809		3,175		22,219			
	計	7,467	2,403		9,870	104	( 2,970) 61,576	48.6	506	
アカマツ	2.0		959		959		2,605			
	4.0		92		92		245			
	計	1,051			1,051		( 450) 2,850	2.2	13	
その他針 広葉樹									651	
合計		15,705	7,090		22,795	1,282	[ 0] ( 10,452) 126,722	100.0	5,993	
目標達成率 計画量							76.3		59.9	
							166,000		10,000	
									176,000	

長級2.0には2.1を含む、( ) はシステム販売取扱量(内数)、[ ] はストックヤードからの出荷量(内数)



表彰式の様子

東京都の木材会館で開催された(株)全国木材組合連合会主催による「二〇〇九年合法証明木材等シンポジウム」(十二月十日)の席上で、当系流協の組合員である(有)泉林業と(有)佐々木農林の二組合員が合法木材等普及推進顕彰で表彰されました。

両組合員とも、調達する立木を全て合法木材として購入し、また、生産した材は合板工場へは合法証明を行って出荷し、製材工場等へも要望があれば合法証明を行って

トピックス 合法証明木材等シンポジウム  
泉林業、佐々木農林に表彰状

いることが認められました。

▽(株)全国木材組合連合会会長表彰状Ⅱ(有)泉林業(住田町)

▽違法伐採対策・合法木材普及推進委員会会長表彰状Ⅱ(有)佐々木農林(大植町)



泉林業



佐々木農林